

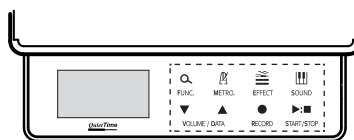
# Installation Guide

Acoustic Piano MIDI Converter

With Silent Mechanism

消音ユニット取付けマニュアル アップライト

Model : *Magic Star Prime*



*GENIO Essence*



OFFICE TASTI CO.,LTD.

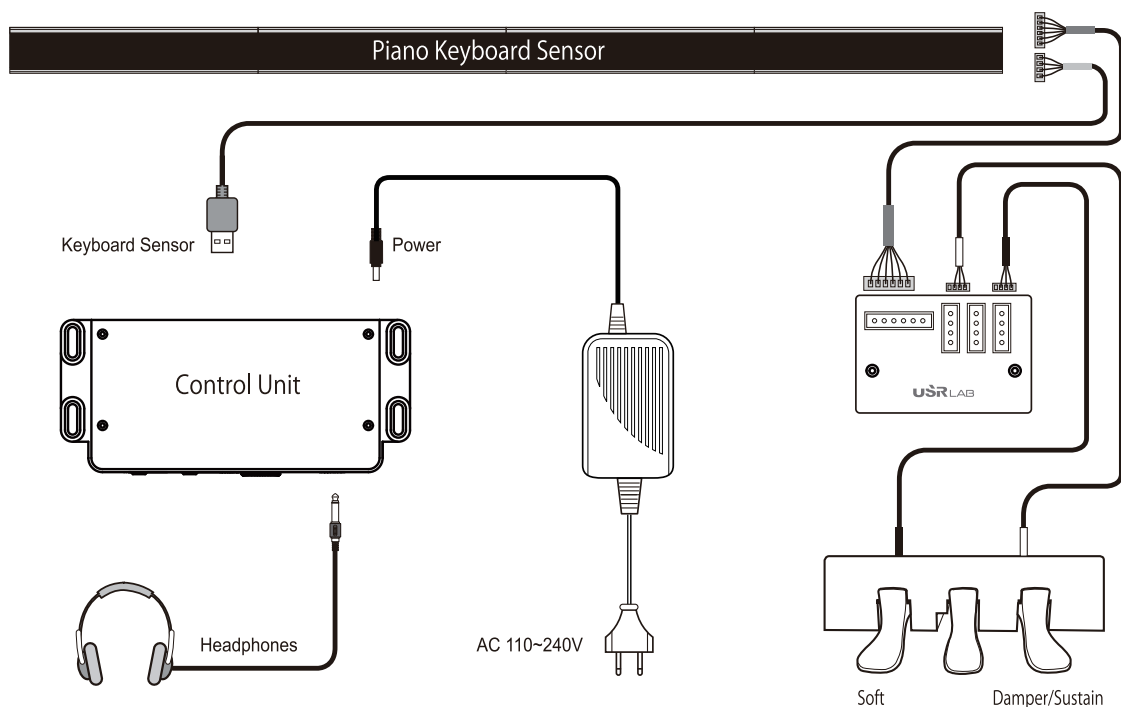
JUL. 2020

## ・目次

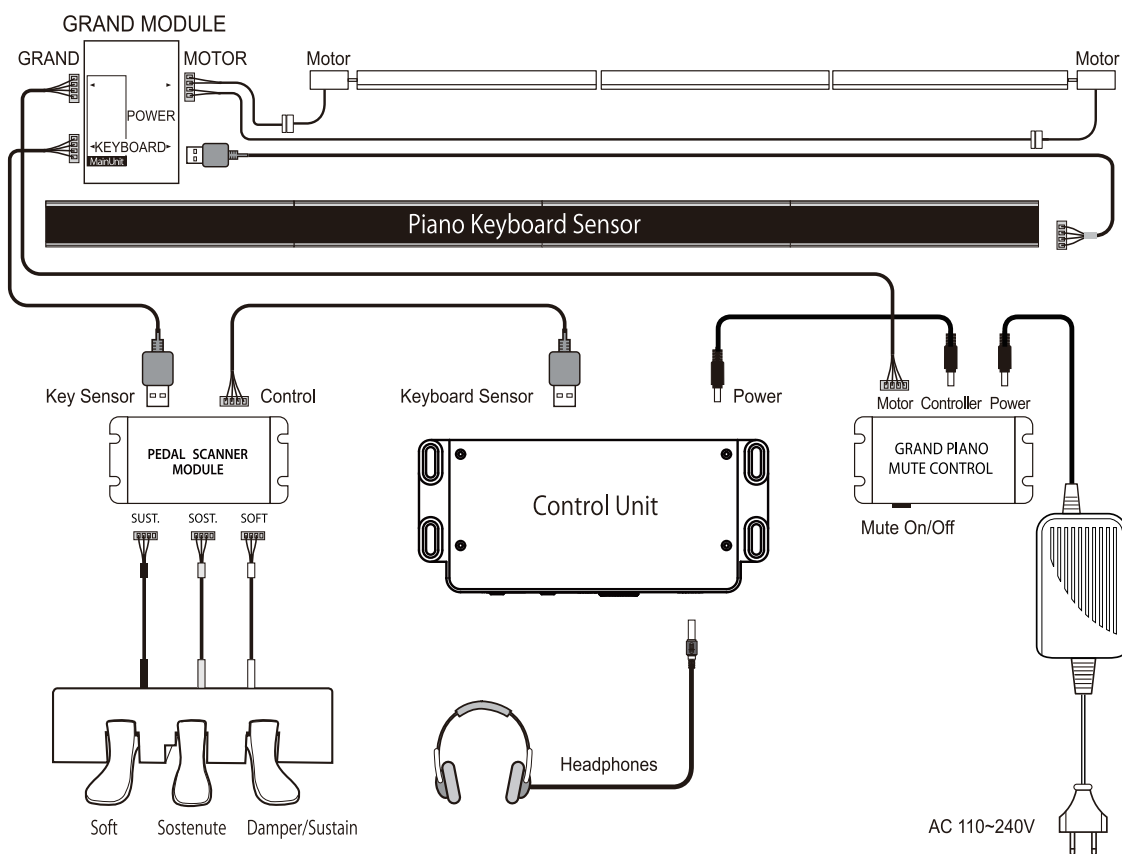
第1章 システムの接続図	2
1 システム配線図 UP GP	2
2 アップライト用、消音アッセンブリー全体図	3
第2章 全体の取付の流れ	4
第3章 ミュートレールの取付け	5
1 取付のポイント	5
2 ミュートレールの加工 (STANDARD BAR)	6
3 ミュートレールの取付け	7～8
4 ミュートレールの取付け調整	9～12
5 ミュートレバーの取付け	13～14
第4章 音源部の取付け	15
1 キーセンサーの取付け	15～18
2 コントローラー、メインユニットの取付け	19
3 ペダルセンサーの取付け	20～21
4 レットオフ調整	22
第5章 システムの初期設定	23
1 初期設定 Prime	23～25
2 初期設定 GT-2mini	26～27
3 初期設定 Essence	28

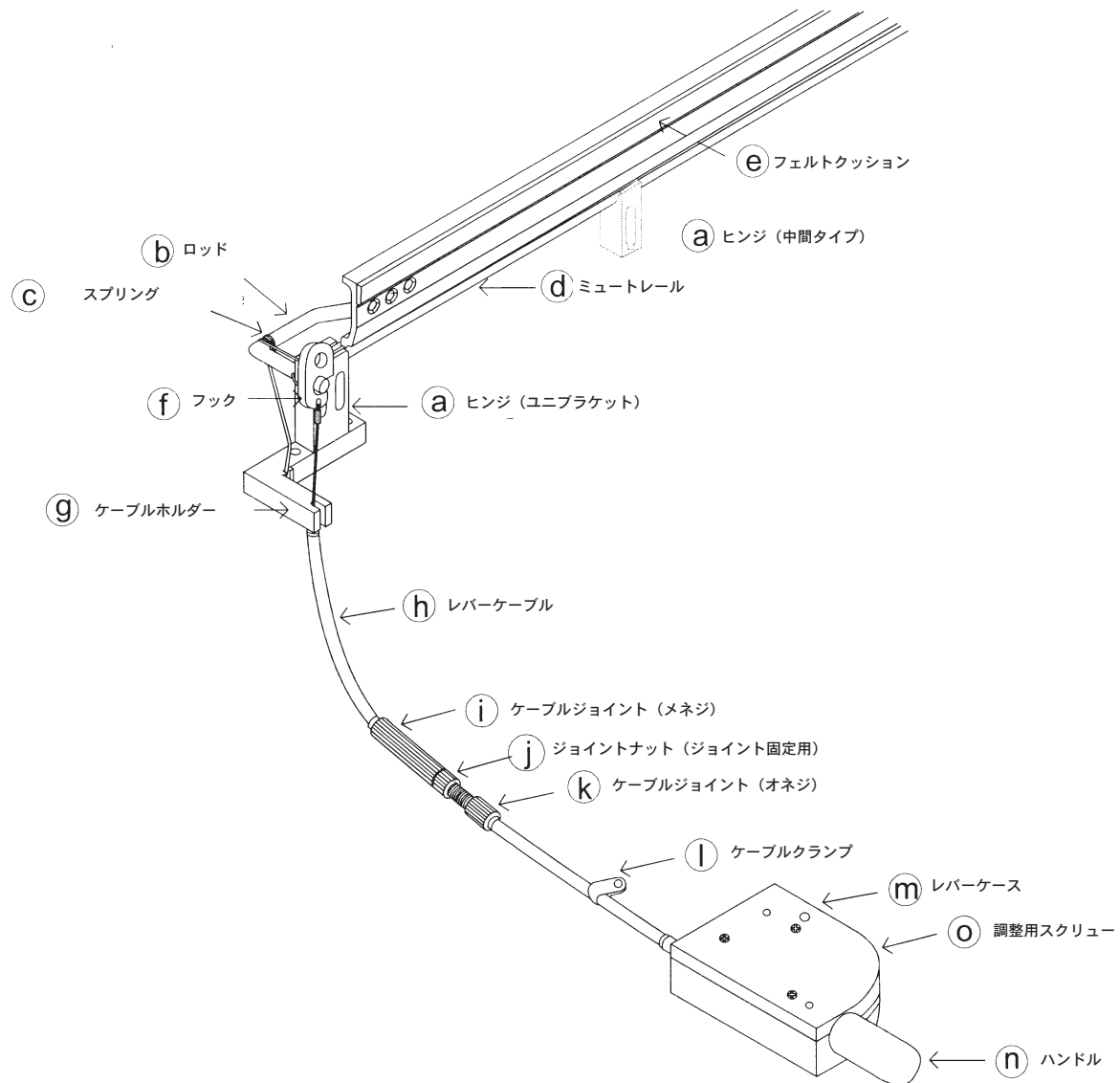
システム配線図

## Upright Piano



## Grand Piano





Mute Rail, Uni-Bracket & Lever A'ssy

### 1 ミュートレールの取付け

- ① 取付けアクションとミュートレールの長さ調整加工(中間ブラケット部の切り込み)
- ② ピアノに合わせてSTANDARD バーの加工をすることも有り
- ③ アクションよりダンパーレールの取り外し
- ④ アクションへミュートレールの取付け
- ⑤ アクションをピアノへ戻し、ミュートレールの直線性を調整 ※重要
- ⑥ ユニブラケットヘスプリング取付け、Eリング取付け
- ⑦ 消音レバーの取付け、ミュートレールの動作確認、消音位置及び開放位置の調整

※重要事項 レールと弦の平行(ストップ時に全てのハンマーの先端が弦までの同一距離を保つ)

開放位置でのダンパーの動きを確実に確保、雑音がないこと(必要に応じ雑音防止フェルト使用)

### 2 音源部の取付け

- ① 鍵盤を外し、キーセンサーを仮置きし適所に黒鍵を入れ、高さ調整用のスプリングの長さなどを検討する
- ② センサー最高音部にメイン及ペダルケーブルを確実に差し込む。
- ③ センサープレートの組立て、スプリングの取付け後に慎重にセンサーヘプレートを嵌める。
- ④ 固定ネジ周辺の基準となる黒鍵を5カ所入れ、黒鍵の下面とセンサー部上面との間隔を慎重に高さを調整する
- ⑤ 鍵盤の裏へ反射シートを貼付ける
- ⑥ 棚板へメインコントローラーを固定し、メインケーブルを差し込む、ヘッドホーン掛けも適宜取り付け
- ⑦ ペダルセンサーを適宜取付け
- ⑧ 配線周りをきれいに仕上げる

※重要事項 基準黒鍵とセンサー部のすきまは1mm程度が望ましい。(広くなり過ぎることは不可)

### 3 仕上げ

- ① 消音位置に合わせたレットオフ調整
- ② システムの初期設定
- ③ デジタル発音の確認、必要に応じて鍵盤毎の感度調整
- ④ ピアノ全体を組立てた後の雑音などのチェック

※重要事項 レットオフはシャンクがレールに触れる手前で確実に抜けるように調整する

アコースティック演奏時に確実にダンパーが上がるかを確認する

#### 1 取付けのポイント(重要な注意)

消音ユニットの取付においてシャンクストップのミュートレールの取付けが最も重要だと言っても過言ではありません。

ミュートレールの取付け状態が不完全であれば消音時に音もれ、アコースティック演奏時に不完全なアクションの働きなど、ピアノ演奏の根本にかかわってきます。

特にアコースティック演奏時にダンパーの働きが十分に確保される事が大事です。

カワイの比較的新しいモデルはミドルエンド部でのダンパーの働きを確保するために細心の注意が必要です。

また、カワイコンソールモデルなど特定機種に対してアクションブラケットに穴あけなしで取付け可能なスペア金具も用意していますのお問い合わせください。(別途有償)

ミュートレールの取付に十分な時間を割り、納得のいく働きが出るようにしてください。

本取付ユニットには、あらかじめ数モデルの長さ加工したストッパーを用意しております。発注時に適宜ご指定ください。

Y121 (ヤマハ U1,U2用 但し旧型U2は若干短く切る必要有り)

Y131 (ヤマハU3タイプ用)

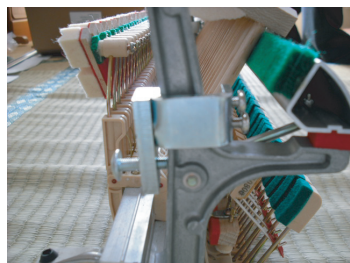
K125 (カワイ 124~127cmタイプ用、BL以降)

K132 (カワイ 132cm用、BL61,71 US50等 BL以降)

STANDARD (ノーカット、加工は技術者各自でお願いします。カワイ旧型KUはこれを加工してください。)



カワイ用はミドルエンド部のダンパーブロックスクリー  
が干渉しないように切り抜いてあります。



カワイコンソール用金具  
(KL-11, KL-51, Ki-60 など)

- ・現場作業用に予備ストッパーが必要な方は、有償にて各ストッパー販売可能です。

## 3-2 ミュートレールの加工 (standard バー)

アルミ製のしっかりとした、ミュートレールです。

プライヤー、ペンチ等では簡単に折れませんので、ドリルなどでしっかりと加工してください。



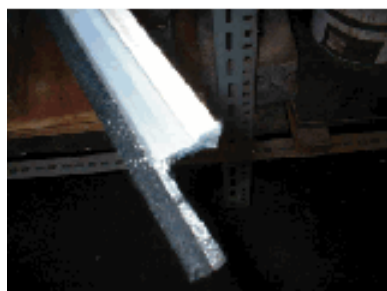
鉄ノコで加工します



鉄ノコで加工します



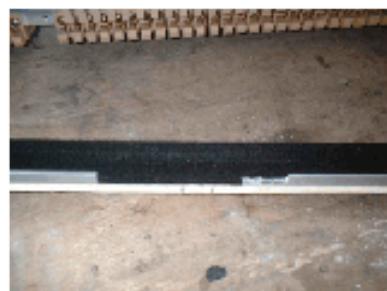
45度に角度を変えることができる鉄ノコが便利です



切りました。



切りました。



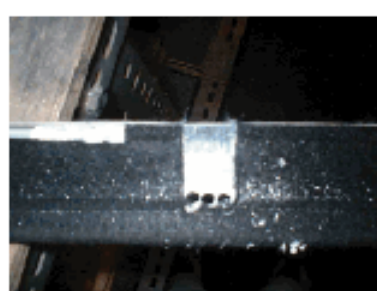
中音部ブラケットにあたる箇所も細工します。



先に切り取る範囲の縦に鉄ノコで切り込みを入れた後に根元はドリルで加工



ドリルで加工します。



3カ所穴を開けました。



これでプライヤーで折り曲げ可能



切り取りました。



ヤスリで仕上げます



きれいに仕上げましょう。



付属の黒フェルトを適宜貼ります。

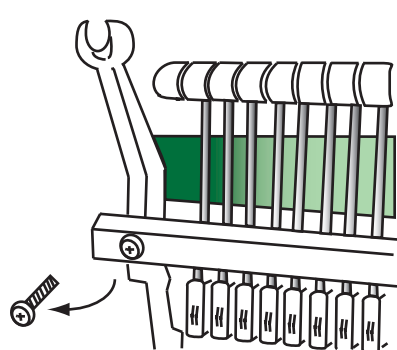


これで完成!

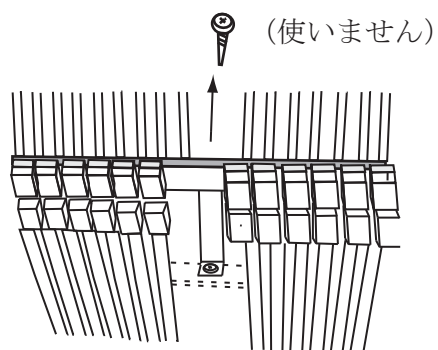
全体の長さをチェック  
中音ブラケットの干渉時は  
前ページの切り取り加工参照



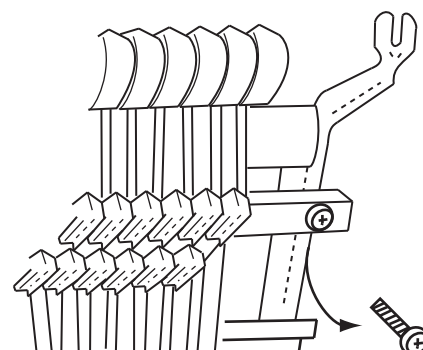
1.アクションよりダンパーレールを取り外します。（ネジ4ヶ所）  
また、外したネジはミュートレール取付けに再度使用します。



・最高音部（元ネジ保管）



・次高音部



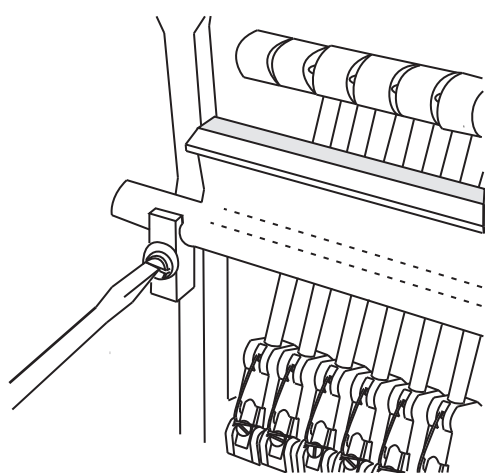
・低音部（元ネジ保管）

ヤマハの次高音部は元のL字金具を取り外すことなくそのまま使用します。

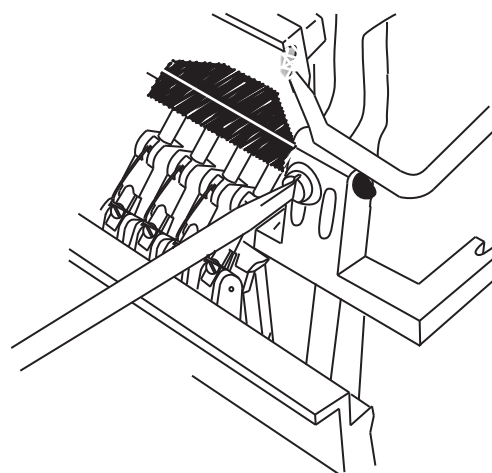
カワイのY字の金具は取り外し、付属のL字ブラケットと交換します。

その際にセンターレールのダンパーフレンジ取付ガイドのヤマをヤスリで平らにすること。

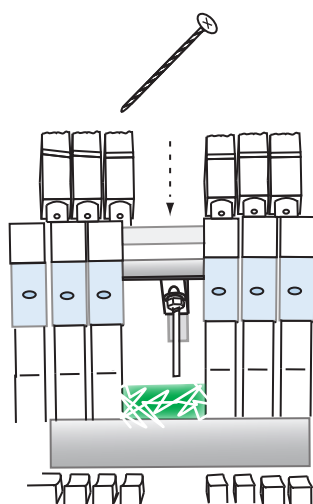
他メーカーも状態に合わせて取り付けるか、L字ブラケットに適宜交換してください。



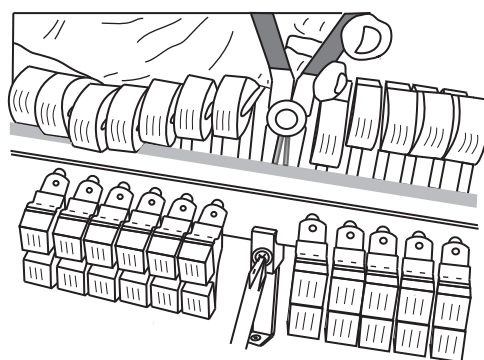
最高音側



低音側



次高音部（ダンパー側よりボルト、ハンマー側よりナット）



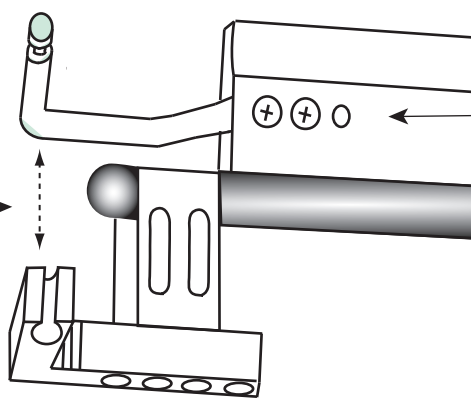
次高音部（ナットをラジオペンチでつまみます。）

・ ストッパーヒンジの固定穴は上下可能なように縦長になっておりますが、基本取り付け位置は穴の上部位置すなわちストッパーが低くなる位置で固定します。

但しハンマーシャंकのハンマー寄り部分（接着部分）近くでストップさせるのがベターと考えられる場合、最高音部などは若干上げ気味に取り付ける方法も有効です。

2.ストッパーにユニブラケットをはめます。

・ アクションへ取付た後できるだけ直線上に近くなるように



裏のフェルトをめくり、ネジを緩め  
ロッド位置変更可能

ネジの付け替えにて位置変更可能

この作業はユニット取付け後、最終的には消音時の弦に対するハンマーストップ位置が全て均等な距離で止めることを目的とした調整となります。

全鍵盤（ハンマー）が均等な距離でストップすることにより、結果、レットオフが全鍵盤（ハンマー）均等な接近距離となります。

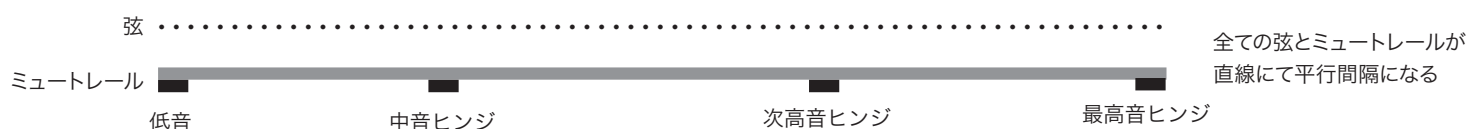
しかし、このストップ位置が不均一な場合、消音時に一部セクションは音が止まるが、また別のセクションの一部は音がもれる（ストップ位置が近い）と言った不具合が起きます。

音もれのセクションで音を漏らさないように、ミュートレールをさらに傾ける調整をすると、今度は元々は音が止まっていたセクションでは、必要以上の広い位置でストップするようになり、また、それに合わせてレットオフをさらに広げることになりますので、悪循環に至りアコースティック全体バランスが取りかえしが付かない状態になります。くれぐれもこの段階で慎重に調整してください。

### 調整手順

- ① ミュートレール取付け後のアクションをピアノへ戻し、まず基準となるセクションを決めます。  
低音、中音、次高音、最高音の4セクションのレールヒンジに近いハンマーをチェックします。
- ② ミュートレール左端のロッドを軽く手前に引きながら、任意のハンマーのシャンクとレールクッションを先ずは密着させゆっくりとハンマーヘッドを弦に近づけて行きます。
- ③ 他のセクションと比べながら、一番早くハンマーヘッドが弦に触れるところが基準となります。  
(次高音部もしくは中音部が基準となることが多い、基準セクションはスペーサーを入れない)
- ④ 基準が決まりましたら、そこをハンマーヘッドが弦に触れた状態を維持しながら、残りの片手で別のセクションのハンマーをそっと押すと、弦より数ミリ離れた状態がわかります。
- ⑤ この数ミリ離れた距離の見当を付け、レール固定個所にスペーサーを入れ、弦よりに距離を調整することにより、各セクションのストップ位置が調整されます。
- ⑥ アクションを下ろし、スペーサーを適宜挿入、アクションを戻しチェックする作業を繰り返します。
- ⑦ 全セクションでハンマーシャンクがレールクッションでストップし、ハンマーヘッドが弦に触れる程度の状態になりますと、全ての弦を面に見立てた場合、その面に対しミュートレールが完全に平行に調整できたということです。

真上から見た時の弦とレールの関係のイメージです。

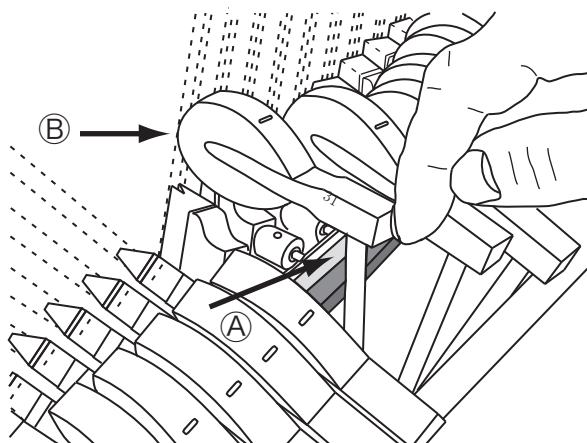


- ① レールのロッド（左端）を左手で軽く手前に引いておいた状態にします。

中音部の任意のハンマーをそっと弦に近付けながらシャンクをまずレールクッションに当てます。①

- ② そのままの状態ですぐ弦へ近づけ、ハンマーヘッドが弦にそっと触れるまで前進させます。②

- ③ ② に触れた時点でレールをそれ以上前進させずに次高音部のハンマーシャンクをレールクッションまで当ててみます。



- ④ もしこの時点で次高音部のハンマーヘッドと弦にすきまがあれば、中音部が一番近いとなり、基準とします。

- ⑤ 逆に次高音部のハンマーヘッドがレールクッションに当たることなく、弦に触れた場合、次高音部が一番近いと考えられますので、今の手順の逆をします。

- ⑥ 同じように、先にレールロッドを手前に軽く弾いた状態で次高音部の任意のハンマーのシャンクがレールクッション当たり③、なおかつ前進するとハンマーヘッドの先が弦に触れる個所 ④でレールをストップさせて、中音のハンマーをそっと前進させて見ます。

- ⑦ 中音のハンマーシャンクがレールクッションに当たるが、ハンマーヘッドが弦に触れない場合、次高音部が近い、すなわち次高音部が基準となります。

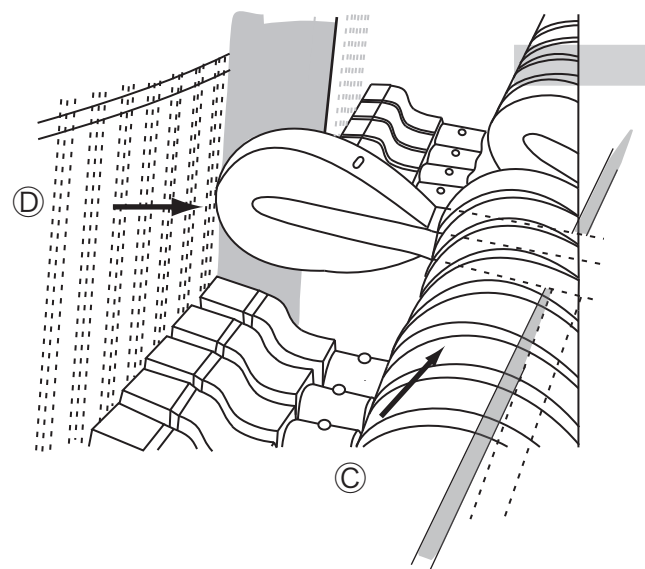
- ⑧ ほとんどのピアノでは、次高音部もしくは中音部が基準となることが多いですが、最高音部が同じ動作で先に弦に当たる基準になることもありますので、注意深くテストしてください。

- ⑨ 基準ハンマーが決定しましたら他のセクションはシャンクがレールに当たるが、ハンマーが弦には触れていないことを確認してください。この確認作業はストッパーが弦に対して一直線になっていないことを意味します。

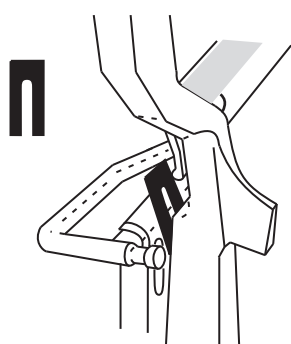
- ⑩ 弦に当たらないセクションはストッパーがアクションブラケット寄りに付いており、逆に弦に早く触れるセクションはストッパーが弦寄りに付いていることを必ず理解してください。

- ⑪ 次にスペーサーを利用してストッパーを直線的な取付位置に調整します。

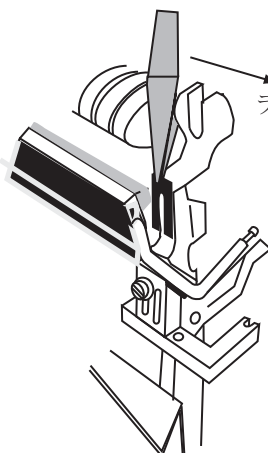
上記の間隔確認時に離れているハンマーがどの程度なのかあらかじめ目測しておくことで作業効率が上がります。



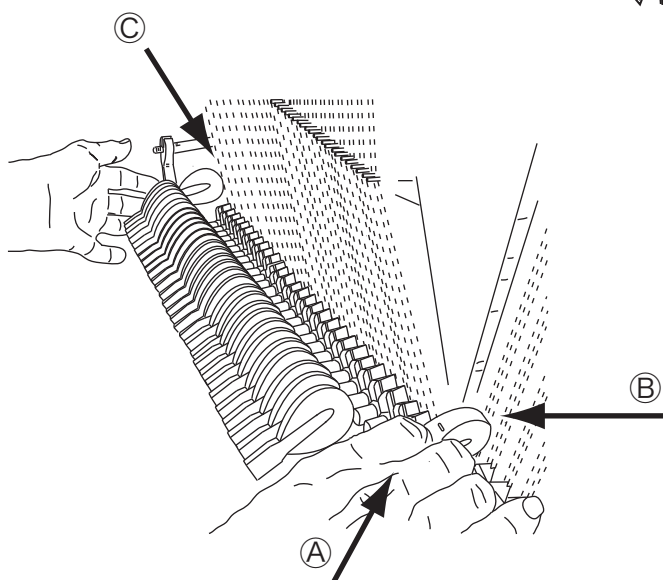
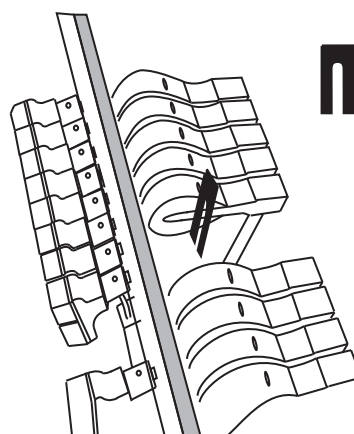
アクションをピアノから降ろしストッパーを弦に近付けたいセクションのヒンジネジを緩め  
付属のスペーサー（3mmもしくは1mm）を適宜組みあわせて距離を調整します。



低音部

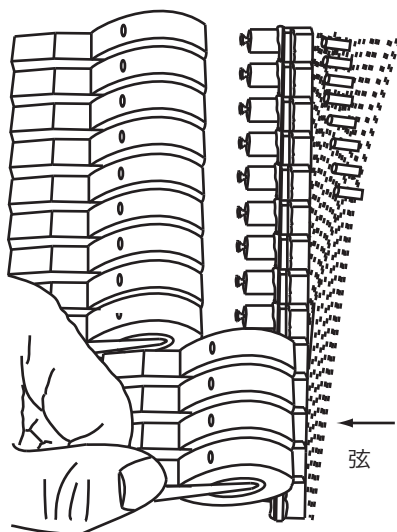


ラジオペンチです。



### チェック作業

右手の親指でシャンクをクッションへ密着させ中指で  
レール反対側を押さえることにより挟みこんでいます。①  
挟みこんだ状態でそっと前進させハンマーヘッドの先を  
弦に軽く触れさせます。②  
そこで停止して、左手で最低音をチェックしています。③  
もし、まだハンマーと弦が離れていれば、スペーサーで調整  
します。

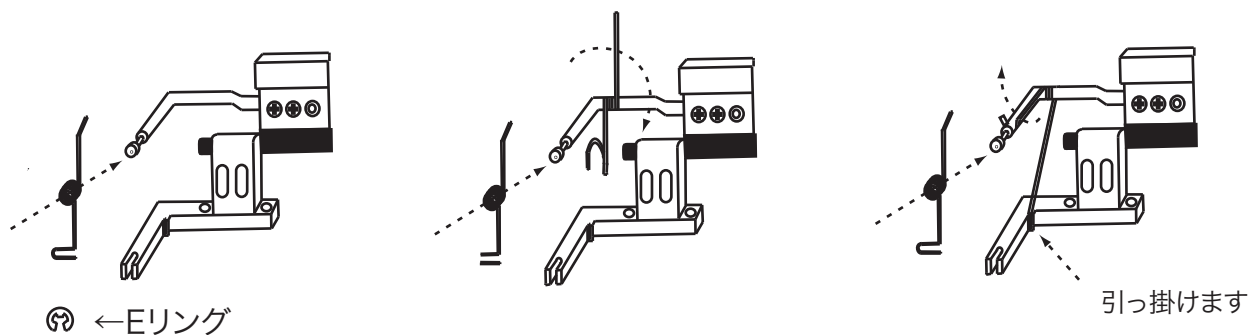


- ・ シャンクがスミュートレールに触れつつ、  
複数のハンマーの先が同時に弦に  
当たった状態がミュートレールの直線が  
確保されると言う事になります。



(テーパースペーサーは、アクションが比較的大きく、ストッパーを余分に  
倒したいなどの時にストッパー全体にあらかじめ傾斜を付けておく事により、  
より運動量を増やすときに使用します。普段は使いません)  
KAWAI 旧型 KU-5 以前のモデルなどに使います。

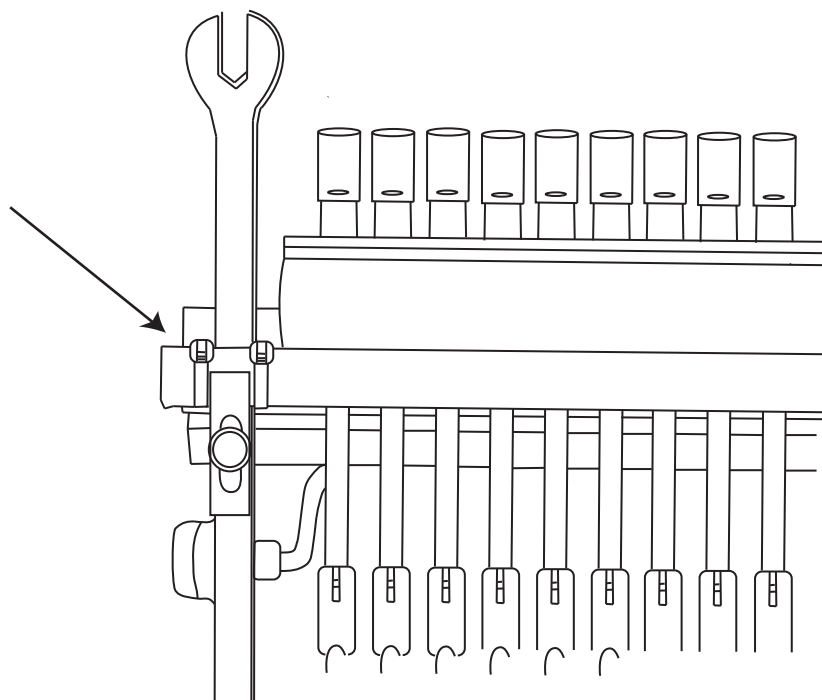
ミュートレールの前後位置調整が終わりましたら、アクションを下ろしスプリング、Eリングをセットします。



スプリングを入れた後にEリングを  
ロッドの細くなった個所の  
手前位置にセットします。

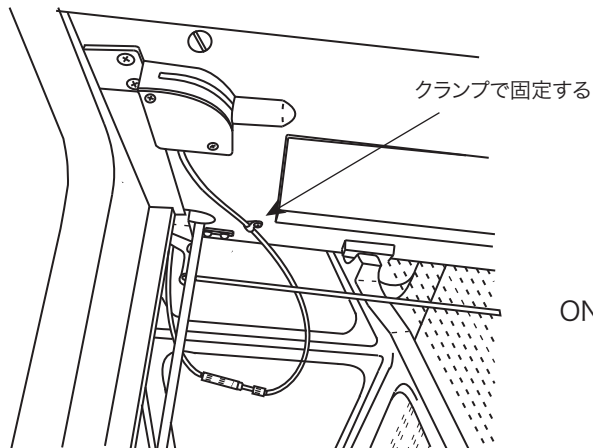
Eリングを付け易くする工具で模型のTAMIYAより4mm Eリングセッターが出ています。

- ・ ストッパーが左右にずれるのを  
防ぐために 必要に 応じて  
最高音部のヒンジ部に付属  
のケーブルタイを使用します。



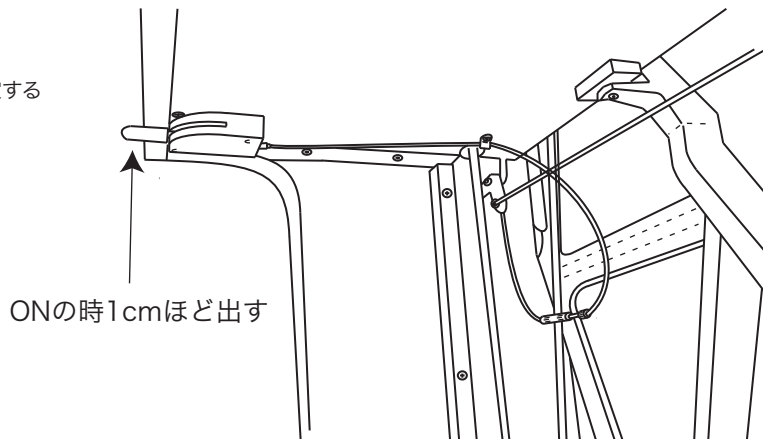
スプリングを取り付けた後にアクションを戻しますが、  
この時突き上げ棒などもはめましょう。  
アクションプラケットボルトもしっかり締めます。

ミュートレバーの取付



取付位置

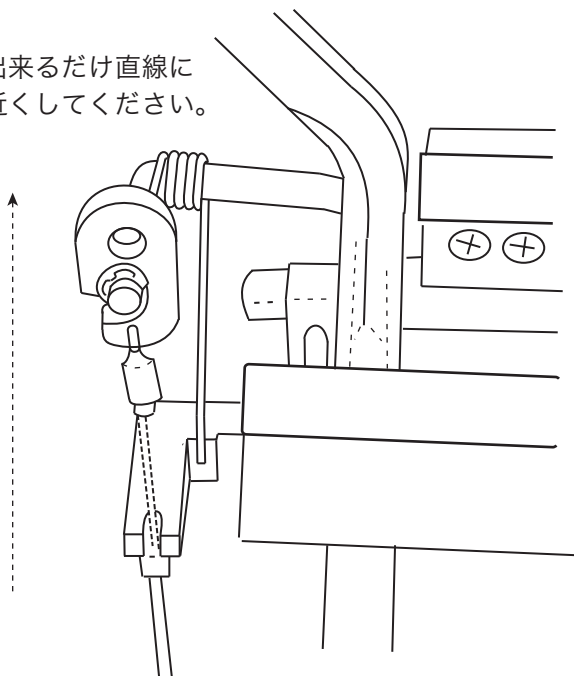
ワイヤーの動きに無理のないように  
ケーブルが自然な円の形になるよう取り付けします。



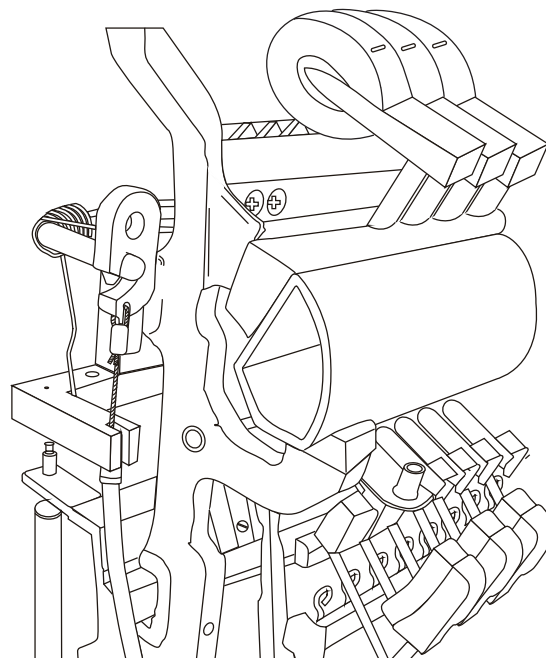
取付位置

- ・付属の木ネジにてピアノ左側につけます。前後位置は随意ですがレバーがON (手前に引いた時) 時にレバーの先1cm程タナ板から出ているくらいが良いかと思います。 ワイヤーに無理がないようにクランプで固定しましょう。

- ・出来るだけ直線に  
近くしてください。



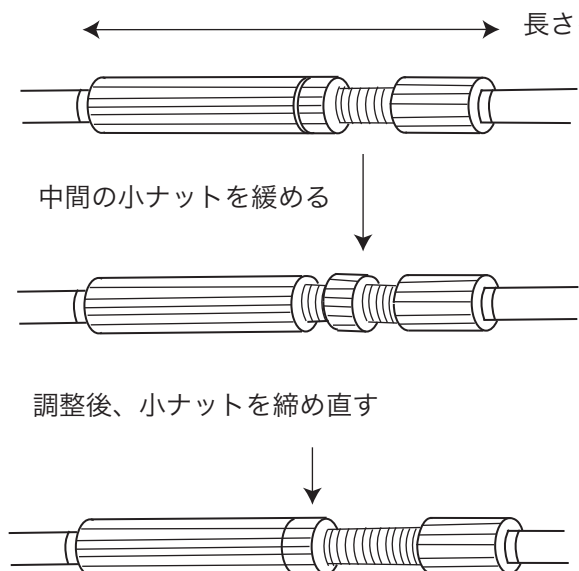
- ・フックをロッドレバーにかけます。



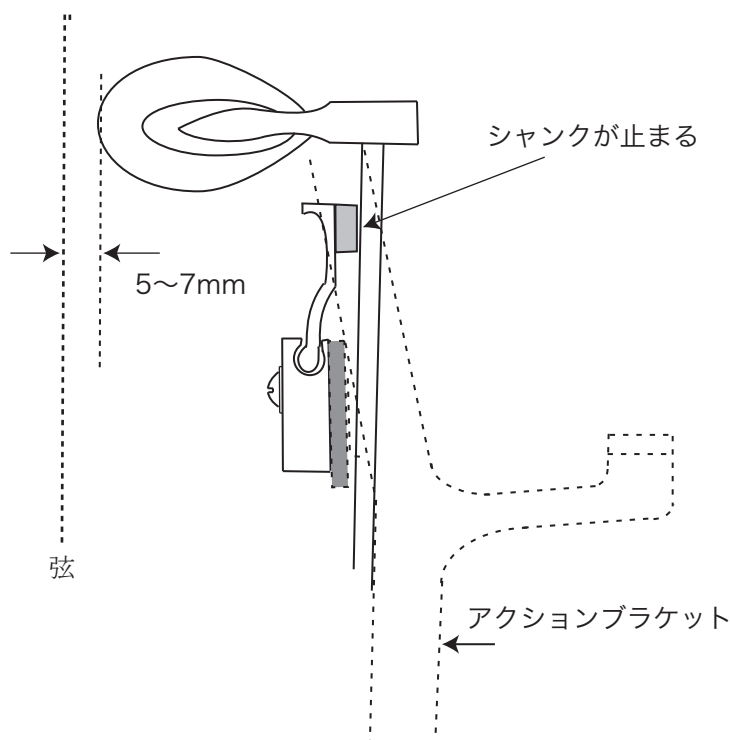
- ・Eリングは手前側に付くようにします。  
ユニブラケットは必要に応じて、位置を変更  
できます。  
ユニブラケット裏のネジにて位置変更します。

## ミュートレールの取付け

### ミュートレールの前後働き調整（引っ張り調整）

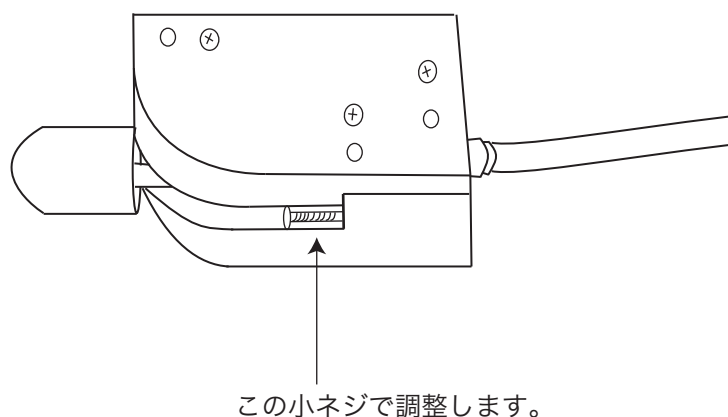


- ・ジョイントスクリューを広げるとミュートレールが手前に倒れます。シャンクが早く止まる、つまりハンマーと弦のストップ距離が長くなります。随意の位置で調整してください。



推奨位置はハンマーと弦との距離が5~7mm程度です。  
使用状態によって各々決定してください。  
スクリューの調整が済みましたら、小さいナットを  
しっかり締め固定します。  
但し演奏者の要望によりもう少し広く取ることも  
あります。

### ・消音 OFF 時のストッパーの戻り量



- ・レバーボックス内の右側に細いネジがあります。  
ピッチ1の+ドライバーで回してください。  
右に締めると奥に入る、つまりレバーが多く戻るので  
ミュートレールがより多くダンパー側に寄ります。  
逆に左に緩めるとレバーの戻りが少なくなるために  
ミュートレールはハンマー寄りで止まることになります。

- ・通常演奏時にハンマーシャンクに干渉しない位置まで  
ミュートレールが戻り、なおかつダンパーが十分に働く  
位置に戻るよう調整してください。

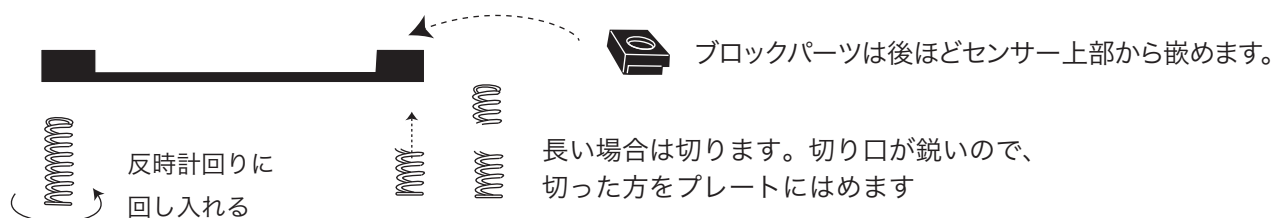
### 1. センサーを取付ます。

鍵盤を全て上げて必要であれば掃除をします。



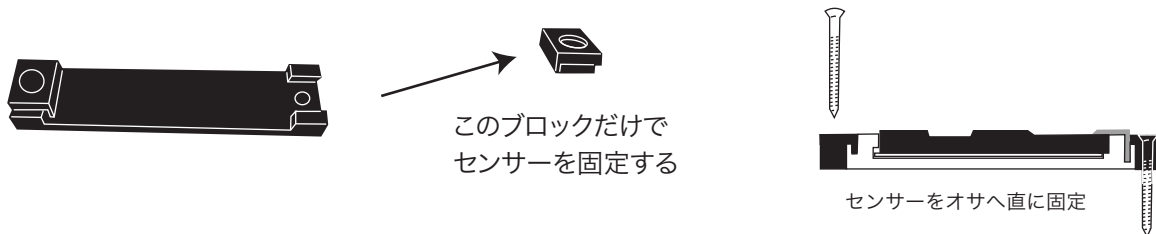
キーセンサーを袋より注意深く袋より出す

#### 1、センサープレートへスプリングをセットします。

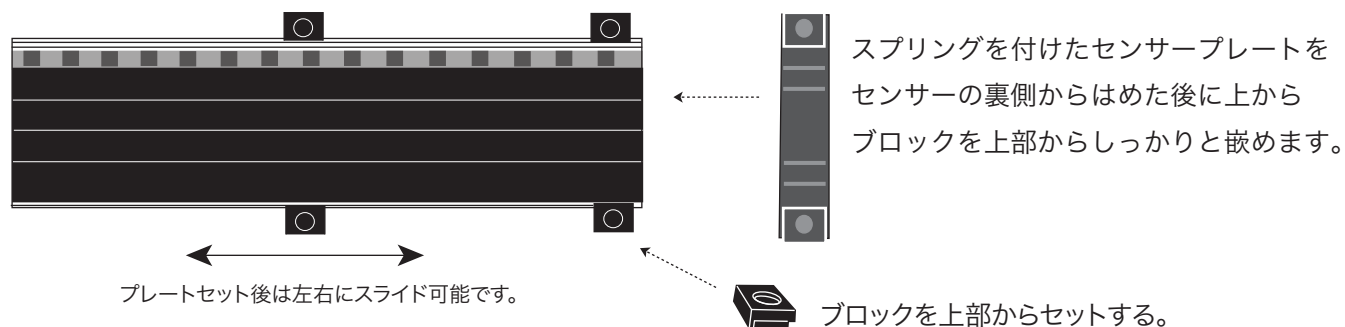


カワイなどでスプリングなしで取り付ける場合、スプリング挿入部が不要な時はニッパー等でカットしてください。

カワイの古いモデルではセンサープレートのプレート部分を使わずにネジ穴のパーツだけでオサに直に取り付け可能です。

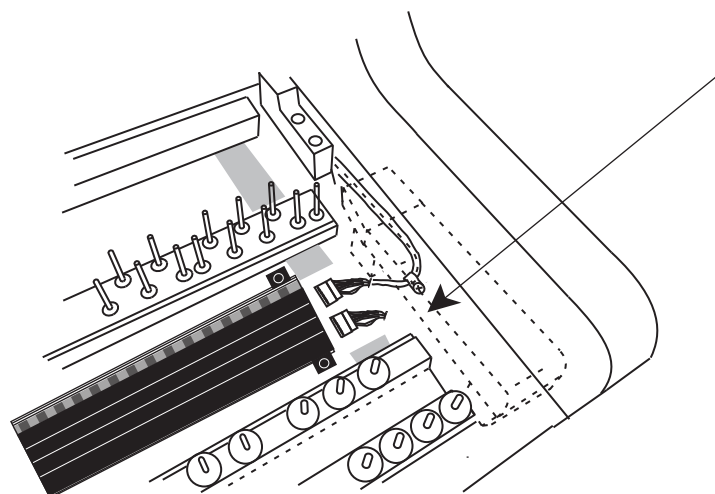


#### 2、センサーレールへセンサープレートを UP は5カ所、GP はオサの位置へ4～5カ所セットします。



5カ所の間隔をできるだけ等間隔にしたいものですが、まずキーセンサーの基盤が4つに分かれているのが見えます。左右から2番目のプレートそれぞれを基盤の境目近くに、真ん中のプレートは真ん中の基盤の分かれ目近辺にスライドすると、均等間隔に近い位置に取付けることができます。(グランドはこの限りではありません)

## 3、キーセンサーを棚板へ取付けます。

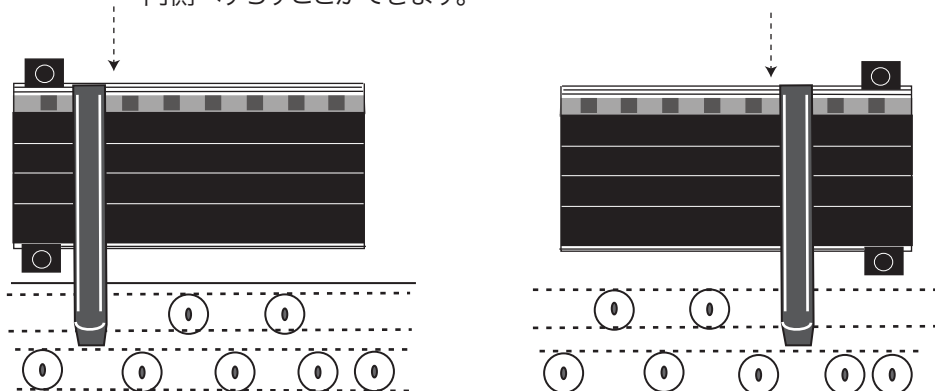


先にコネクターをしっかりと差し込む

ピアノのタイプにもよりますが、  
配線を拍子木の下を通し、ウデ木と拍子木の  
ゲタの間を通すとスッキリと収まります。

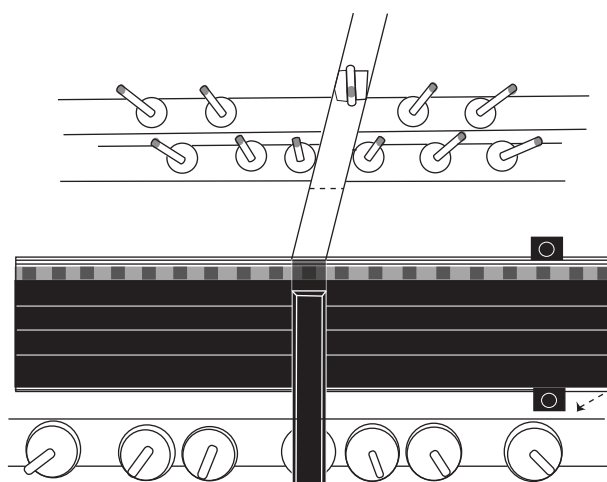
キーセンサー左右位置

2つの黒鍵の内側と次のセンサーとの間を揃えます。  
ここが極端に狭い場合は各鍵盤とセンサーとのアタリがずれることもありますので、  
その場合はセンサー保護カバーをはずし、4セクションに分かれたセンサーをネジをゆるめ  
内側へずらすことができます。

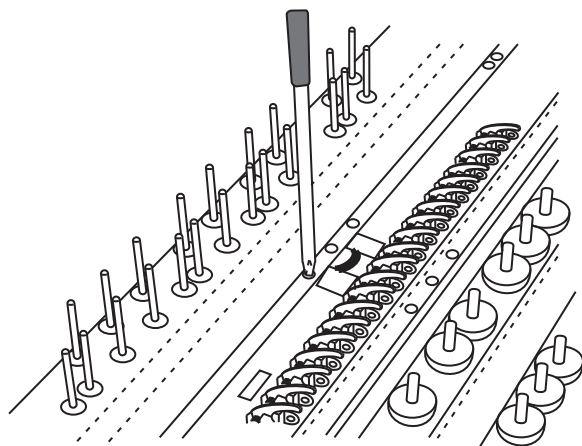


黒鍵 A#2 と A#86を入れます

キーセンサー前後位置

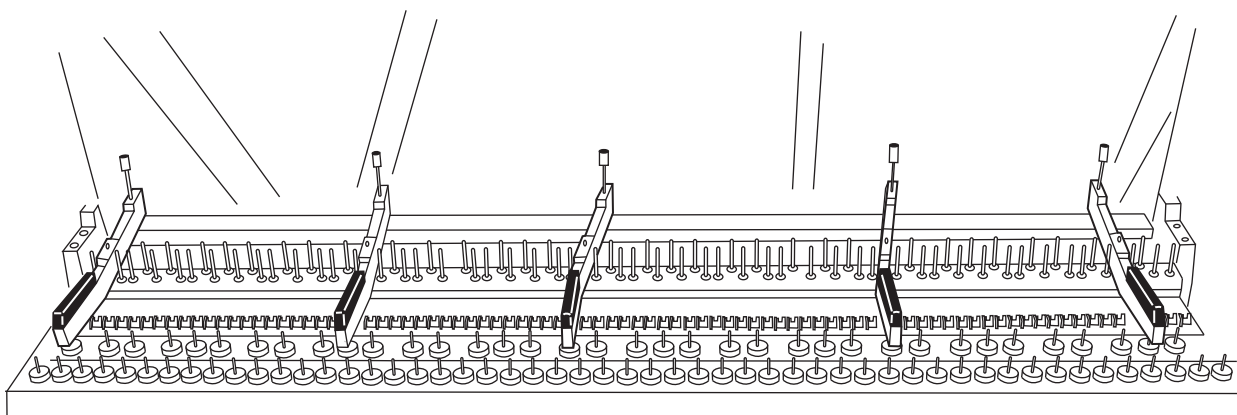


フロントレールにできるだけ  
近くに取り付けます。



全てのネジを少しだけ締め込みます。

高さ調整のため固定ネジ近くの任意の黒鍵を5カ所（もしくは4カ所）入れます。



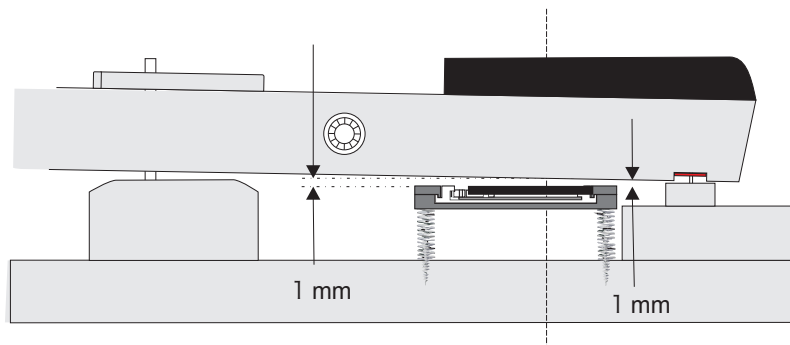
キーセンサーの高さを調整します。

センサーレールの上面と黒鍵を押し下げた時に黒鍵下面がセンサー部（黒鍵バランス側）  
1 mm 以下の隙間で取付けます。

フロント側も同様ですが、強打時に鍵盤下面がレールに当たらないようにしてください。

若干の誤差はキーセンサー感度の初期設定にて補正されます。

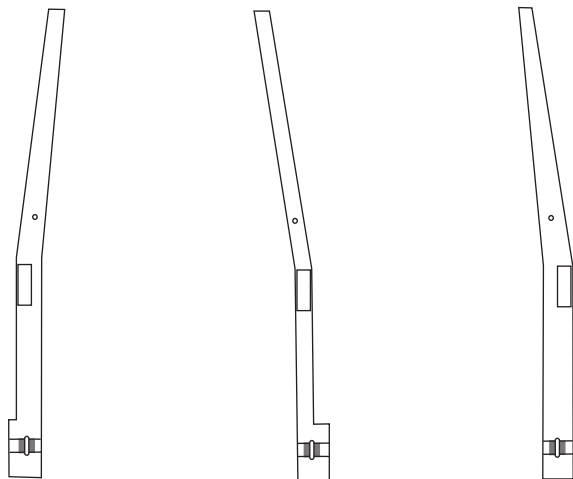
ミュートレール取り付け時の1 mmスペーサーを隙間に合わせ軽く挟みこむ程度で計ることができます。



## 反射シールの貼付け

鍵盤裏側の屈折部に合わせて反射シールを貼ります。

白鍵

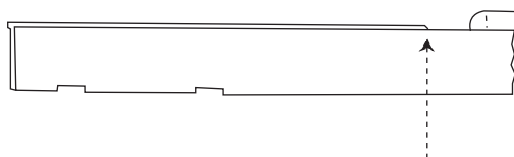


黒鍵

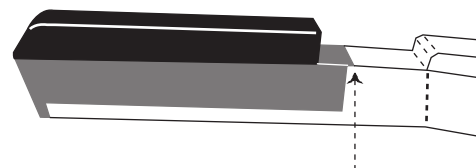


最低音A1裏から見て左に貼ります。

最高音C88裏から見て右に貼ります。

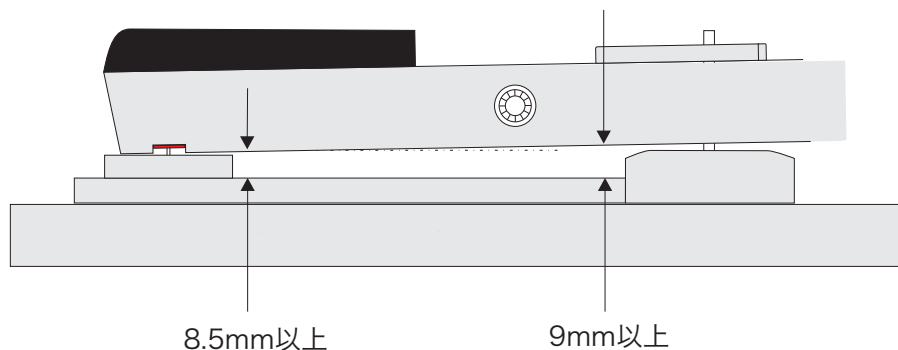


白鍵アクリライトの端に合わせます。

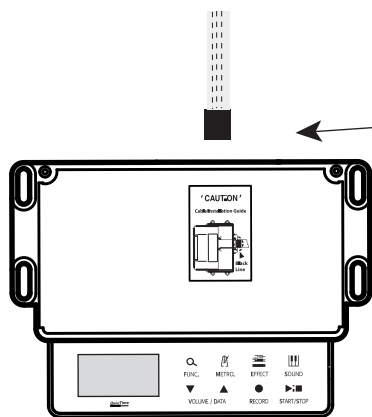


黒ニススの端に合わせます。

カワイ系ピアノに取り付け時に必要な鍵盤下の隙間は黒鍵を基準にしまして、フロント側8.5mm以上バランス側9mm以上です。  
近年のモデルはそれぞれ10.5mm、11mm程度で出荷されていますので、問題ありません。  
旧年モデルのコンソールタイプなどで長期使用により鍵盤が下がっている場合狭いことがあります。  
通常寸法の白鍵64mm、黒鍵12mmの整調に戻すと必要な隙間を確保できる場合がありますので、狭い場合は整調の見直しを検討してください。



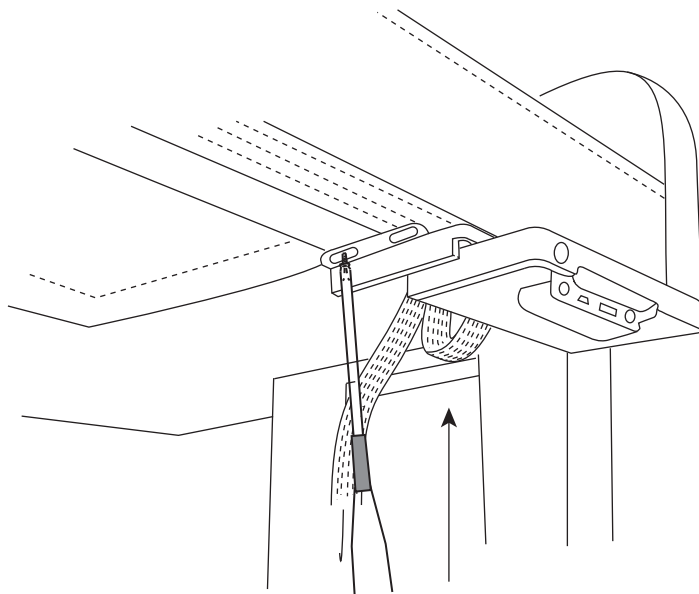
## コントロールボックスの取付



メインケーブルはコントローラーをピアノに取付けた後にしっかりとコネクタに差し込みます。

Essenceはスライドしません。

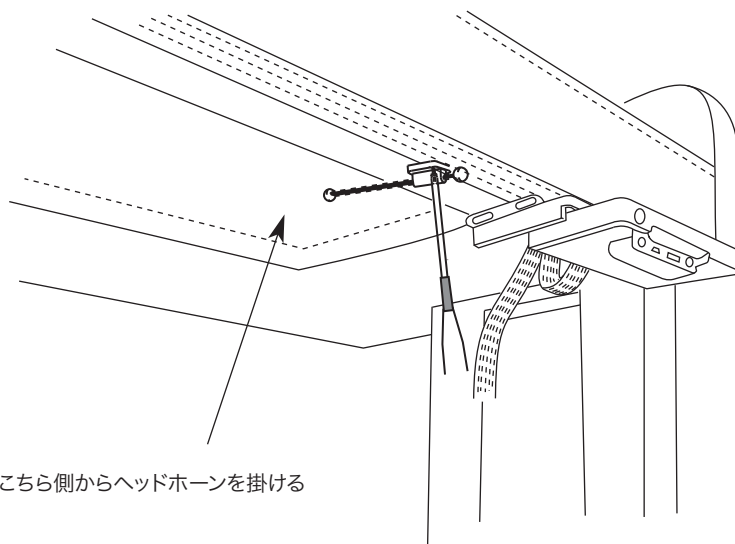
- 1、コントローラーを右端につけます。  
出し入れがスムーズになるように裏のケーブルを少したるませておくことがコツです。



ケーブルをたるませておく (Prime, GT-2mini)  
クランプで棚板下に数カ所所固定する

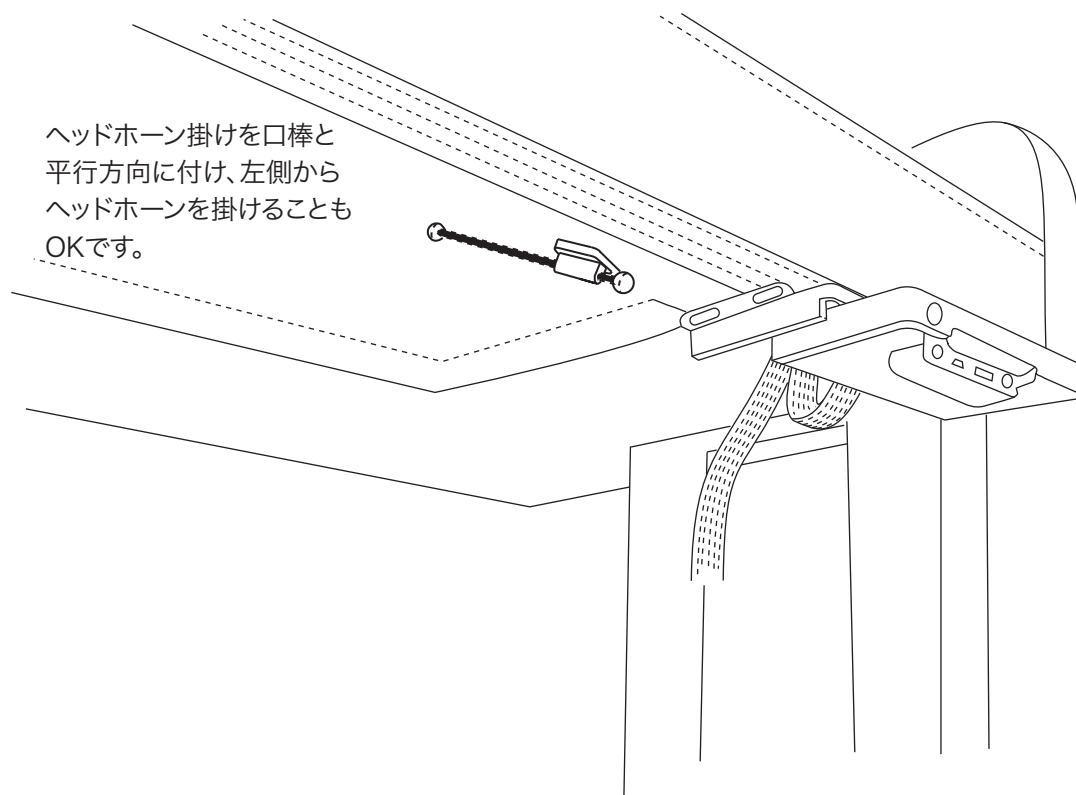
- 2、次にヘッドホーン掛けを左横つけます。  
ヘッドホーンは後側(下前の方)から掛けておくことをお勧めします。

もしくは平行方向に取り付け  
ヘッドホーンを左側からかけて置くのもOKです。

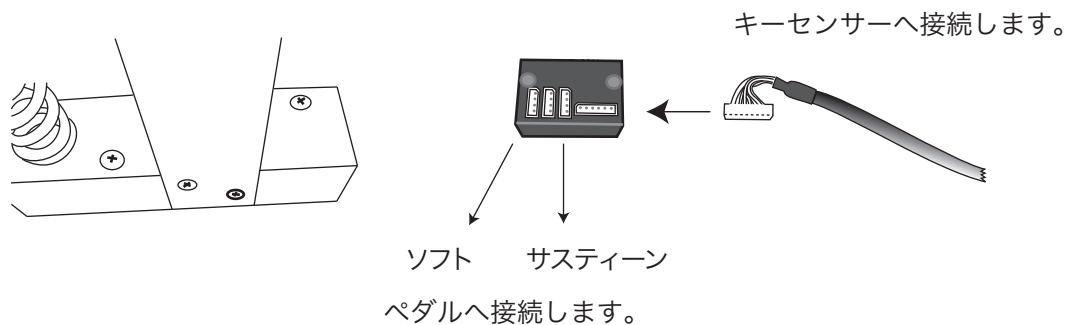


こちら側からヘッドホーンを掛ける

コントローラーを左側(低音側)へ取付けることもできるようにメインケーブルの長さがございます。  
その際は消音レバーやヘッドホーン掛けを取付ける位置関係を工夫してください。



キーセンサーとペダルの分岐ターミナルを底板へ適宜固定します。



## ペダルセンサーの取付

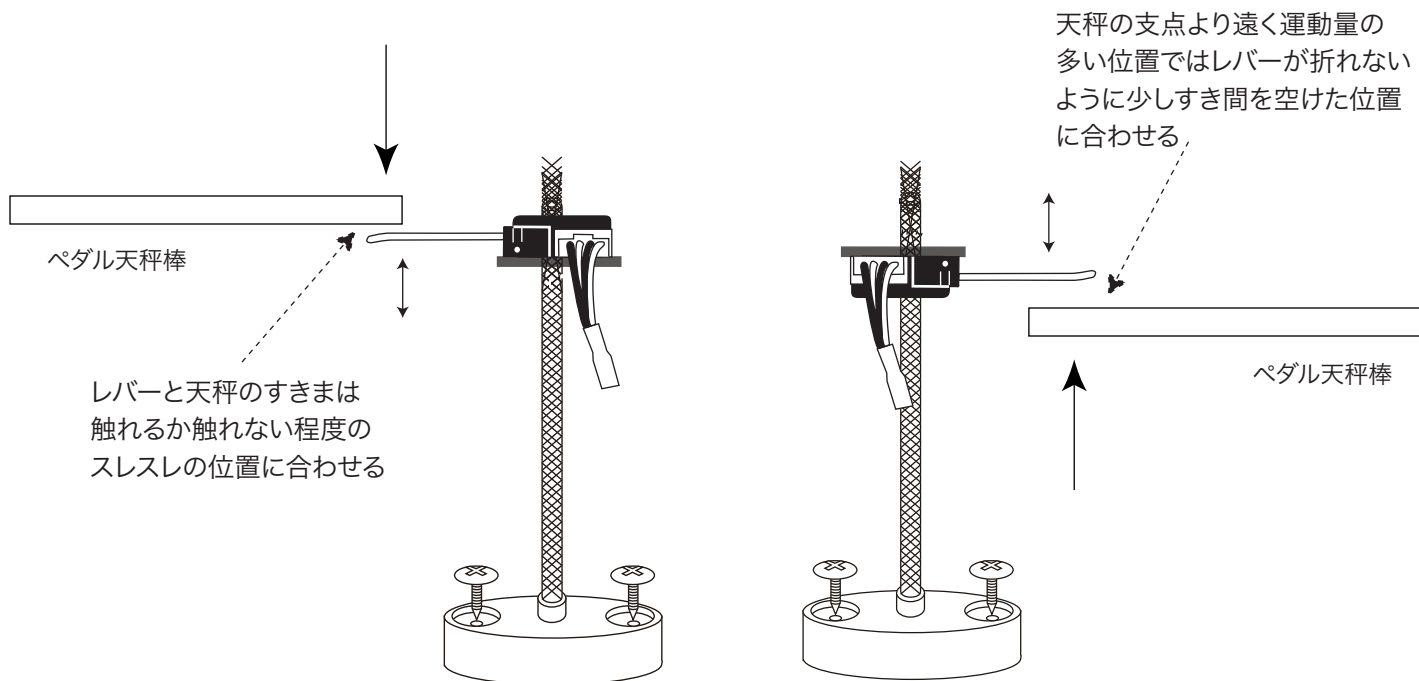
1.ペダルセンサーは天地方向どちらにも付けることができます。

- ・単純な ON-OFF スイッチです。

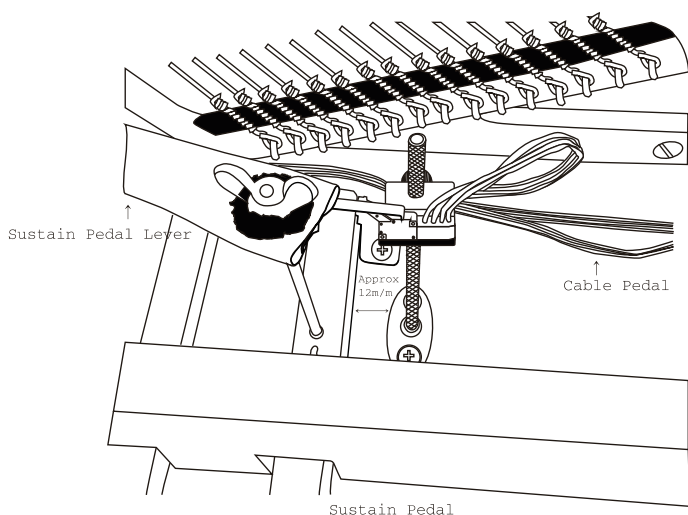
ペダル天秤棒の動きに合わせてレバーが作動する位置を決めます。

最後に初期設定によりスイッチを認識します。

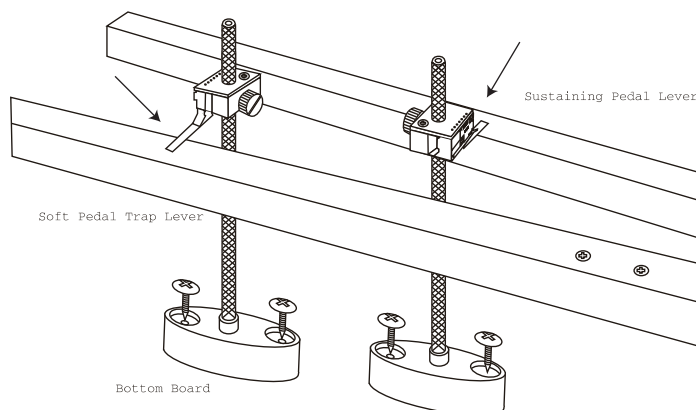
スイッチのON-OFFタイミングはコントロールのシステムより調整します。



- ・サスティーン、ソフトコネクターを間違えないようケーブルをつなぎましょう

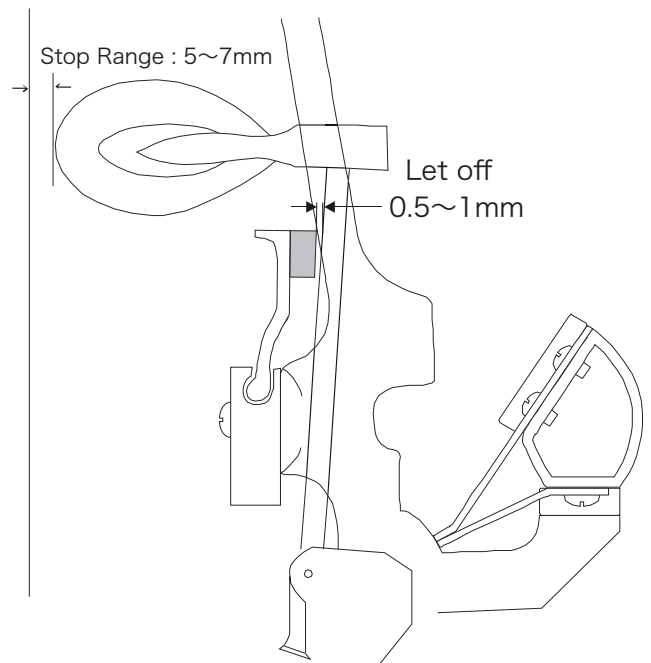


ペダル付近に取付ける



天秤棒の左側、突き上げ棒付近に取付ける場合スイッチが無理に押し込まれないように天秤棒と隙間を適宜調整してください。

- 1.ハンマーシャンクストップ方式の消音システムの機構上ハンマーのレットオフが通常より広く取る必要があります。  
通常のレギュレーティングスクリューにて調整します。  
感覚としましてハンマーが弦に対してレットオフするのではなく、シャンクがストッパーに対して0.5~1mm程度でレットオフするような感じで調整してください。



ジャックが素直に抜ける感覚をつかんでください。  
確実に抜けないと鍵盤が素直に下がり切らないため  
デジタル発音に支障をきたします。  
取付後の初期設定後、鍵盤の音量バランスが著しく  
バラつく場合は小さくなる鍵盤の確認ミュートレール  
に対するシャンクの抜けを確認ください。  
抜けが悪いために鍵盤がずっと下がらないために  
センサーへの反応が悪い場合があります。

Quiet timeは取付け後に、最適なデジタル音源再生のために、各鍵盤と各センサーの最適な状態にする感度調整が必要になります。そのため、取付け後に鍵盤センサーシステムの初期設定を行います。

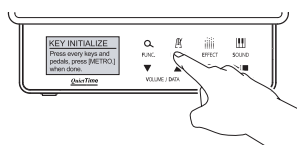
### A. 初期設定の前にご確認ください。

- (1) 本システムの配線連結が完全であること
- (2) 消音レバーが消音位置にあること
- (3) 設定前に鍵盤が押されていないこと
- (4) レットオフ等の消音システムに合ったピアノ調整が済んでいること

レットオフのタイミングですが、シャंकが完全にストッパーの手前で抜けていることをご確認ください。ギリギリで抜けるようでしたら、鍵盤が完全に下がりませんので確実な打鍵ができません。

### B. 初期設定モード

- (1) 電源を入れた直後にシステムが立ち上がるまでに、[METRO.]ボタンを押しつづけ、次の画面が表示されましたら、ボタンを離し入力指示画面を待ちます。



#### KEY INITIALIZE

Release button  
and wait ...

88Keyモード : n88    85Keyモード : n85

モードの切り替えは初期設定前に [METRO.]を長押しする。

一旦設定されたモードは記憶されるので再度初期設定に入ると記憶されたモードが立ち上がります。

- (2) 88鍵盤を順番にひとつずつメゾフォルテぐらいの強さでしっかりと弾きます。弾いた鍵盤が初期化されると該当鍵盤の音が鳴ります。認識済みの鍵盤は短く弾いた場合は発音します。鍵盤を再び2秒以上押さえると該当鍵盤は再び初期化します。初期化されない場合、一度電源を切って最初の手順からやり直します。

#### KEY INITIALIZE n88

Press every keys and  
pedals, and prss  
[METRO.] when done.

#### KEY INITIALIZE

Memolizing ...

- (3) 各ペダルを一度ずつ踏みます。
  - (4) 88鍵盤を弾いた後に [Metr] ボタンを押します。
- 保存中画面でそのまま待ちます。

鍵盤データのメモリーが完了しますと次の  
HOME 画面に変わりましたら演奏可能となります。

#### HOME

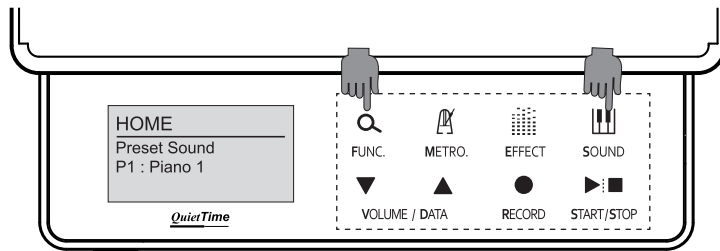
Preset Sound  
P1 : Piano 1

- (5) 初期設定完了後に鍵盤毎により音量のバランスが気になる場合は次の 鍵盤毎の音量バランス調整をご覧ください。

各ペダルの効きのタイミングは初期設定により設定されますが、浅く、深くなどのタイミングの位置変更はペダルセンサーの上下で調整するのではなくシステム設定にてプログラムでタイミング設定します。

(Magic Star Pro Systeme Control Ver 1.61以降 Main Ver 1.23以降)

上記以下のVer.の場合はアップデートを行ってください。

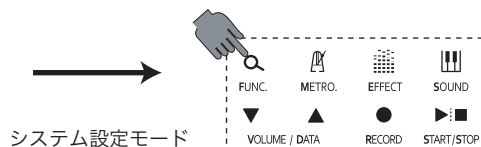


コントローラー アップライト、グランド

1, [FUNC.] と [SOUND] を同時に押します。

2, コントローラーのバージョンが出ました他、繰り返し [ FUNC ] を押し、  
[15] Pedal - On Adj. を呼び出します。

SYSTEM [1]	
Control	v.1.61
Main	v.1.23



システム設定モード

SYSTEM [15]	
Pedal-On Adj.	
Sof.5	Sos.-
Sus.5	
Press [Up/Down] edit.	

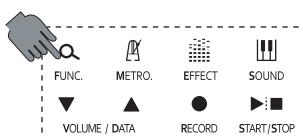
SYSTEM [15]	
Pedal-On Adj.	
Sof.5	Sos.-
Sus.5	
Press [Up/Down] edit.	

▼, ▲ 押すと、まず Sof.5が反転します。

▼, ▲でタイミングを調整します。

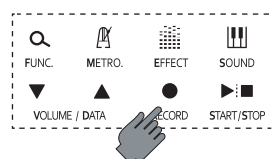
数値が大きいと早く(浅く)

数値が小さいと遅く(深く)になります。



SYSTEM [14]	
Pedal-On Adj.	
Sof.5	Sos.-
Sus.5	
Press [Up/Down] edit.	

[FUNC.] 押すと Sos.- → Sus.5と移動しますので、同じように右ペダルのタイミングを調整します。



調整後に [RECORD] ボタンを押すとメモリーされます。

※本説明文は、お客さま取扱説明書にも載っています。

キーセンサーの初期設定にて、各鍵盤ごとの感度は自動調整されますが、  
若干の鍵盤ごとの音量の違いが出る場合は、下記の作業にてボリュームの微調整が可能です。

#### A. 鍵盤感度の個別調整

- (1) 電源を入れシステムが立ち上がる前に [RECORD] ボタンを押し  
次の画面に変わるまで待ちます。
- (2) ヘッドホーンを着用し、鍵盤を弾きながら音量バランスを  
チェックします。

#### KEY SENSE ADJ.

Number :  
Sense :  
Push [Rec.] to Finish.

調整が必要と思われる鍵盤を [▲],[▼]で調整します。  
調整範囲は 000～255 です。  
表記の数値が絶対音量ではありませんので、  
ご注意ください。

#### KEY SENSE ADJ.

Number : 57  
Sense : 130  
Push [Rec.] to Finish.

- (3) 調整が終わりましたら、再度 [RECORD] ボタンを押すと  
設定内容がメモリーされ、HOMEモードとなり、  
演奏可能となります。

#### HOME

Preset Sound  
P1 : Piano 1

#### システム設定機能

- ・ HOMEモードで [FUNC.] + [SOUND] を押すとシステム  
設定画面に変わります。
  - ・ [FUNC.] ボタンで設定項目を選択します。
  - ・ [▲], [▼] ボタンで設定を変更します。
  - ・ [SOUND] ボタンで設定がメモリー、HOMEに戻ります。
- 1, Firmware Version 表示 (変更不可、現在のシステムVersion)
  - 2, Start-Up 音色 : 電源を入れた時の基本音色設定 (Preset 17, Uesr-Set 16の中のひとつ)
  - 3, Start-Up Volume : 電源を入れた時の基本音量 デフォルト値:60 設定範囲:0～100
  - 4, Line In Gain : デフォルト値: -10dB 設定範囲: 0～ -79dB
  - 5, Line In Gain : デフォルト値:0dB, 設定範囲: 0～ -79dB, Vol : ボリュームボタン連動
  - 6, システムの初期化:全てのセッティングを工場出荷状態に戻す。
  - 7, LCD Contrast: 設定範囲: 0～30 デフォルト値: 工場でセッティング
  - 8, LCD Back light : 自動消灯時間 Auto-Off, Always ON, 10秒、20秒、30秒
  - 9, システム時間設定 : システム(内蔵時計)を調整する。
  - 10, トリル時 Note off 挿入 : On/Off
  - 11, キータッチ連打補正 : Off, 10～400, デフォルト値 : 250
  - 12, キータッチ和音補正 : Off, 10～300, デフォルト値 : Off
  - 13, MIDI Out Channel : 1～16 デフォルト値 : 1
  - 14, 自動電源Off時間設定 : デフォルト値 : Off, 5分～12時間まで設定可能
  - 15, ペダル作動位置設定 : 各ペダル設定範囲 : 0～10 デフォルト値 : 5

#### SYSTEM

Grand Mute :  
No Grand module

## B. 初期設定モード

- (1) 電源を入れた直後にシステムが立ち上がるまでに、[METRO.]ボタンを押しつづけ、次の画面が表示されましたら、ボタンを離し入力指示画面を待ちます。



- (2) [Mode] LEDが点滅中に88鍵盤を順番にひとつずつメゾフォルテぐらいの強さでしっかりと弾き、弾いた鍵盤が初期化されると該当鍵盤の音が鳴ります。最後にペダルも両方一度づつ踏みます。  
認識済みの鍵盤は短く弾いた場合は発音します。  
鍵盤を再び2秒以上押さえると該当鍵盤は再び初期化します。  
初期化されない場合、一度電源を切って最初の手順からやり直します。
- (3) 各ペダルを一度づつ踏みます。
- (4) 88鍵盤とペダルを弾いた後に、再度 [Metr.] ボタンを押します。

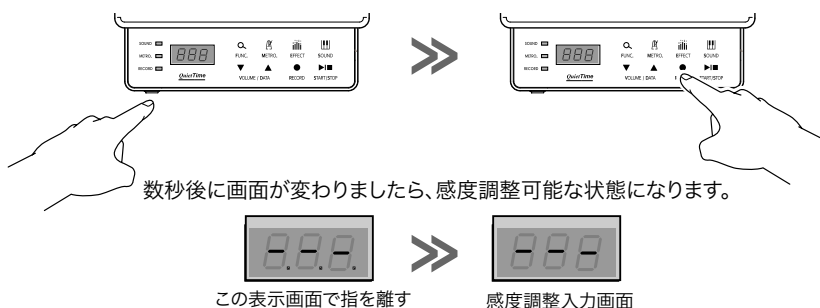
数秒間入力データをメモリーへ記録後、右の画面表示に変わりましたら、演奏可能になります。



## 鍵盤ごとの感度調整 (ボリューム調整)

キーセンサーの初期設定にて、各鍵盤ごとの感度は自動調整されますが、鍵盤ごとの音量の違いが若干出る場合は、下記の作業にてボリュームの微調整が可能です。

- (1) 電源を入れた直後にシステムが立ち上がるまでに、[RECORD]ボタンを押しつづけ、次の画面が表示されましたら、ボタンを離し入力指示画面を待ちます。

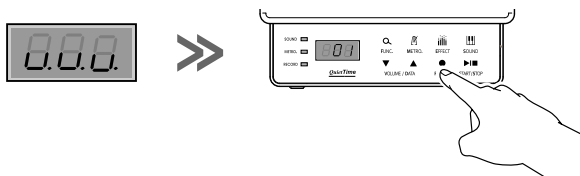


- (2) ヘッドホーンを着用し、鍵盤を弾きながら音量バランスをチェックします。

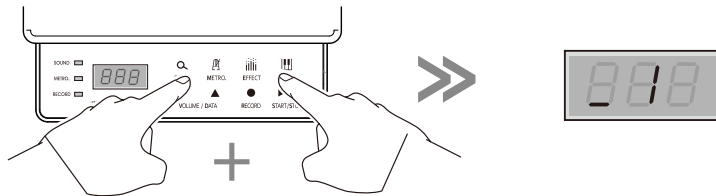


調整が必要と思われる鍵盤のボリュームを [▲],[▼]で調整します。  
調整範囲は 000～255 です。  
表記の数値が絶対音量ではありませんので、ご注意ください。

- (3) 調整が終わりましたら、再度 [RECORD] ボタンを押すと設定内容がメモリーされ、HOMEモードとなり、演奏可能となります。



- ・ HOMEモードで [FUNC.] + [SOUND] を押すとシステム設定変更画面に変わります。



- ・ [FUNC.] ボタンで設定項目を選択します。
- ・ [▲], [▼] ボタンで設定を変更します。
- ・ [SOUND] ボタンで設定がメモリーされ、HOMEモードに戻ります。

- \_1, Firmware Version 表示 : con : コントロールユニットの現在バージョン  
key : キーセンサーの現在バージョン
- \_2, Start-Up Sound : 電源を入れた時の基本音色 (Preset 17音色より選択)
- \_3, Start-Up Volume : 電源を入れた時の基本音量 デフォルト値:60 設定範囲:0~100
- \_4, Line In Gain : デフォルト値: -10dB 設定範囲: 0~ -79dB
- \_5, Line Out Gain : デフォルト値: 0dB 設定範囲: 0~ -79dB, Vol : ボリュームボタン連動
- \_6, システムの初期化: 全てのセッティングを工場出荷状態に戻す。
- \_7, トリル時 Note off 挿入 : On/Off、デフォルト値 : Off
- \_8, キータッチ連打補正 : Off, 10~400, デフォルト値 : 250
- \_9, キータッチ和音補正 : Off, 10~300, デフォルト値 : Off
- \_10, MIDI Out Channel : 1~16 デフォルト値 : 1
- \_11, 自動電源Off時間設定 : デフォルト値 : Off, 5分~12時間まで設定可能
- \_12, ソフトペダル作動位置設定 : 0~10段階調整可能, デフォルト値 : 5
- \_13, ソステヌートペダル作動位置設定 : 0~10段階調整可能, デフォルト値 : 5
- \_14, ダンパーペダル作動位置設定 : 0~10段階調整可能, デフォルト値 : 5

## B. 初期設定モード

- (1) [Mode]ボタンを押しながら電源を入れます。(3-5秒間 [Power] LED点滅後点灯に変わる)

※ 接続ケーブルなどに問題がなければ [Mode] LEDが点滅します。

点滅が始まらない場合は電源を切り、配線のコネクターなどをチェックしてください。

・88Keyモード : ---- / ・85Keyモード : ----

・モードの切り替えは [Mode] ボタンを長押しします。



- (2) [Mode] LEDが点滅中に88鍵盤を順番にひとつずつメゾフォルテぐらいの強さで

しっかりと弾き、最後にペダルも両方一度ずつ踏みます。

弾いた鍵盤が初期化されると該当鍵盤の音が鳴ります。

認識済みの鍵盤は短く弾いた場合は発音します。

鍵盤を再び2秒以上押さえると該当鍵盤は再び初期化します。

初期化されない場合、一度電源を切って最初の手順からやり直します。

- (3) 各ペダルを一度ずつ踏みます。

- (4) 88鍵盤とペダルを弾いた後に、再度 [Mode] ボタンを押して完了します。

※ [Power] LEDが点滅から点灯に変わります。

## 鍵盤ごとの感度調整 (ボリューム調整)

キーセンサーの初期設定にて、各鍵盤ごとの感度は自動調整されますが、

鍵盤ごとの音量の違いが若干出る場合は、下記の作業にてボリュームの微調整が可能です。

- (1) ダイヤルボタンを押しながら電源を入れます。

3-5秒間 [Power] LEDが点滅後、[Power] LEDが長短サイクルで点滅します。



- (2) ヘッドホーンを着用し、鍵盤を弾きながら音量バランスをチェックします。

調整が必要と思われる鍵盤のボリュームをダイヤルで調整します。

元のボリュームに戻すにはダイヤルボタンを2秒程度長押しします。

ボリュームが調整されると [Mode] LEDが点滅します。

※個別感度調整中に特定の鍵盤を初期化する方法

① 該当鍵盤の半音下の鍵盤を押し、[Mode]ボタンを軽く押す。

② [Mode] LED が点滅した後に初期化する鍵盤を一度押し、[Mode]ボタンを軽く押す。

③ 該当鍵盤が初期化されます。

- (3) 全ての調整が完了しましたらダイヤルボタンを一度短く押します。

※ [Mode] LEDが点滅後に [Power] LEDが点灯しましたら完了です。

